

はじめに

情報社会学会会員の皆様

情報社会学会誌 Vol8, No1 をお届けいたします。

本号では、2本の原著論文と3本の研究ノートを掲載いたします。学会誌への投稿、審査を経て2013年年次研究発表大会で発表予定の論文です。いずれも、独自性、新規性があり、情報社会学への貢献は大きいと考えます。

原著論文「知的障害者活躍現場の工程アーキテクチャ」は、形式的適格性、学問的価値ともに掲載に値すると判断します。もの造りにおけるアーキテクチャ表現のなかに、知的障害者雇用という新しい領域での展開に新規性を感じます。既往の研究レビューから結論に至るまでの論旨も整理され形式的適格性も論文として十分と判断します。今後のグローバル化し安価な労働力が国内に浸透する時代に対応した、コストも考慮したアーキテクチャモデルの研究を待ち望んでいます。

原著論文「大学生の Twitter における行動規範に関する分析」は、ソーシャルメディアにおける大学生の行動規範というテーマについて統計的に分析し、論じています。採取した標本の特性と立証する目的に応じて適切な分析方法を検討し、分析した結果を検定して導いた結論には信頼性が認められます。研究方法にも独自性、新規性があり、情報社会学に対する貢献は大きいと考えます。今後、Twitter だけでなく Facebook など他のソーシャルメディアについて同様の調査研究が行われることを期待します。

研究ノート「ソーシャルメディア時代における消費者行動の変容とリレーションシップ・マーケティング手法の有用性について—競争環境の変化に適応する日本企業の企業戦略—」は、現代の企業戦略の転換の必要性を示そうとした意欲的な研究です。今後のさらなる研究に期待します。

研究ノート「なぜ鯖江市は公共データの公開に積極的なのか—協働推進と創造的な行政経営、地域産業構造の変化の視点から」は、鯖江市の事例を挙げ、形式的適格性は、仮説の設定、先行研究のレビュー、研究の内容など備えていると思います。今後、他の事例による官民の協働による地域情報化の研究に期待します。

研究ノート「電力小口排出権取引と企業会計のビジネスモデル制度の検討と概念実証システムの構築」は、CO2 排出に対してユニークな ID を付加することにより電力の小口排出権取引のビジネスモデルを提案し、さらに企業会計への応用について考察しています。排出権取引の普及について実証実験をベースに会計からアプローチした点は、独自性があり、情報社会学に対する一定の貢献は認められると考えます。今後は、どのような理論的な貢献があるか、もしくは社会的、実務的な含意があるのか研究に期待します。

今後も会員皆様の積極的な研究活動に期待すると同時に情報社会学に関する多彩なご投稿をお待ちしています。

2013年5月25日

情報社会学会
会長・編集委員長
大橋 正和